

ウ 考 察

事前調査と事後調査による意識の変容を比較してみると、研究主題を追究していく一員として、共通の意識を持って研究に携わろうとする意識が強くなっており、共同研究に対する意欲が高まりつつあることを伺い知ることができる。また、自由記述による意識調査からは、個々の教師それぞれが研修で体得した仮説-検証の手法を生かし、日常の自己の授業を科学的な目で見直し、具体的な授業仮説を設定して授業の改善を図っていかうとするようになってきていることも分かる。

国語科の実践例

(1) 授業テーマ 指示語に着目させて文章の関連に気付かせ、関連的に表現されている心情を読み取らせる授業

(2) 本時のねらい (略)

(3) 授業仮説 指示語「そ」に着目させ、「そ」の指し示している内容を叙述に即して正確にとらえさせれば、「めちやくちやに高い声で話す」お父さんの心情を想像することができるであろう。

(4) 検証の観点

「そんなとき、お父さんは、快まってゆめ子をめちやくちやに高い声で話したのでした。」「そ」に着目させ、その述べ方から「そんなとき」の指示内容を読み取ることの必要性に気付かせ、「深いため息」と「快まって」を関連させて読むことができるかどうかを検証する。

教師の論 予想される児童の反応 ①指導上の留意点 ②手だて ※検証の方法

1 本時の課題を確認する 〇小黒板で提示し、読んで確認する。

「お父さんは、どんなときにゆめ子を高い声で話さるのだからか。」 〇自分の

「めちやくちやに高い声で話す」お父さんの様子や心情を読み取る。 〇「そ」の指し示す内容にサイドラインを引く。 〇「ゆめ子」の意味を疑いから導き出し、意味を考える。

「そのとき」とは、どんなときなのかさしている内容のところに線を引いてみましょう。

③「そ」に着目させ、指示内容を読み取らせた後、「ため息」「深い」と結びつける

【検証の観点1】

※ 引いた部分をチェックする。 ※ 発言やつぶやきを記録する。

(2) 研究の考察

① 意識の変容

ア 事前調査と事後調査の比較と結果

調査 あなたは、研究主題を意識して日々の授業に取り組んでいますか。

	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
ア 毎日の授業の中で解決しようとしている。	[Bar chart showing high frequency of responses]										
イ 授業研究の時にだけ意識する。	[Bar chart showing moderate frequency]										
ウ 意識しないことが多い方である。	[Bar chart showing low frequency]										

(抜粋) [調査]第1次調査、[調査]第2次調査

調査 研究を推進するうえで問題になることや困っていることがあったら次の中から選んでください。(複数選択可)

	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
ア 他の教科部や研究全体の方向がよく分からない	[Bar chart showing low frequency]										
イ 何をどう実践すればいいのか焦点が明確でない	[Bar chart showing low frequency]										
ウ 事前や事後の協議会が漠然としている。	[Bar chart showing low frequency]										
エ 授業研究と授業研究の間の関連がない。	[Bar chart showing moderate frequency]										
ウ 日常の授業に生きている研究になっていない。	[Bar chart showing moderate frequency]										

② 研究の見通しについての考察

- 〇 全体授業研究を計画的に設定したことは、研究内容の具体的な理解や共通理解を図る上で効果があった。
- 〇 研修だよりの発行は、研究の流れやその成果や課題、手法を共有化し、研修意欲を高めるのに役立った。
- 〇 授業仮説を設定し、検証の観点と方法を指導過程に位置付けた指導案による授業研究の推進は、研究と日々の授業とを関連づけ、日々の授業に対する意識を変え、授業改善のための手法を提供する点で効果的であった。

イ 日々の授業に対する反映調査

- 〇 研究主題を意識した日々の授業への取り組み……12/27人
- 〇 授業仮説の設定と検証の手法を取り入れた日々の授業……18/27人

6 今後の課題

- 〇 全体としての成果はあがったが、個が埋もれない研究体制の工夫をしていく。
- 〇 経験差、年齢差を生かし、年齢構成を効果的に生かす工夫をする。